# 精神科外来における看護外来支援モデルの作成

○畠山　卓也[1)]、浅沼　瞳[2)]、則村　良[3)]、三井　督子[4)]、西池　絵衣子[5)]、池内　香[1)]、田井　雅子[1)]、竹林　令子[6)]、岡　京子[7)]、小山　達也[8)]、渡辺　純一[9)]

1) 高知県立大学　看護学部、2) 昭和医科大学　保健医療学部　看護学科、3) 医療法人財団青溪会駒木野病院、4) 京都大学　大学院医学研究科、5) 兵庫県立大学　看護学部、6) 杏林大学　保健学部　看護学科、7) 駒沢女子大学　看護学部、8) 聖路加国際大学　大学院看護学研究科、9) 公益財団法人井之頭病院

ワークショップ企画者らは、科研費（24K13733）の支援を受けて、「精神科高度実践看護師（以下、専門性の高い精神科看護師）の行う外来看護活動の好事例を活用した看護外来支援モデルの構築」に取り組んできた。本研究課題でいう「看護外来支援モデル」とは、専門性の高い精神科看護師が精神科外来で実践してきた好事例からノウハウを抽出・類型化し、精神科外来の看護師が実践できるように作成、構築するものである。このモデルは、精神科外来の看護師が、限られた時間のなかでもよりよい看護実践を展開することを意図している。今後益々地域における看護支援は重要になり、外来における看護実践はその中核を担う。この度専門性の高い精神科看護師の協力を得て、好事例に関する外来看護支援について面接調査を行なった結果、8つの看護実践が示された。

1.患者と家族に寄り添い、信頼関係を構築する
2.困難の背景を探りながら、患者・家族のもつ力を捉えなおす
3.患者・家族のケアの連続性を維持できるようはたらきかける
4.患者や家族の意向を調整し、患者家族の意思決定を支える
5.患者・家族と支援者の橋渡し役としての役割を遂行する
6.患者の生活力の向上や療養行動の獲得に向けて働きかける
7.患者・家族の抱える課題解決に向けて働きかける
8.患者を支援する家族にかかわり方を提案する

本調査結果からは、外来の場だからこそ実践できる豊かな看護支援が見えてきた。今後は、面接調査で得られた結果を踏まえて作成したモデルについて、エキスパートコンセンサスを確認し、精神科外来における看護実践への応用可能性を検討する予定である。そこで、本学術集会のワークショップでは、精神科外来における看護実践にご興味やご関心のある方にぜひご参加いただき、このモデルについて議論を深められる機会をもちたいと考えた。

ワークショップの前半では、「精神科外来における看護外来支援モデル」をご紹介させていただく。ワークショップの後半では、少人数のグループでモデルについて自由なディスカッションを行い、応用可能性に向けての課題を共有したいと考えている。

なお、企画者らは、本ワークショップの内容について、開示すべき利益相反事項はありません。